

中学受験へ 幼児期から準備

中学受験に向けた準備の低年齢化が加速している。大手塾「四谷大塚」は11月から、小学校に入学する前の「年長」の幼児を対象にした模試を始め、小学校低学年から受験を目指す塾に通う子どもも増えていく。背景には、大学入試改革などを考慮し、中学受験を重視する保護者の考えもある。(平岡妙子)

(平岡妙子)



大学入試
新時代へ

小学生の全国模試に「年長」枠

小学生の全国模試に「年長」枠

四谷大塚が主催する「全国統一小学生テスト」は今年から初めて、小学校に入学前の「年長」の幼児も参加できる。11月3日、全都道府県約25500会場で無料で実施する。



四谷大塚

ろ、申し込みは首都圏を中心
に約3千人あるという。
小学校受験をする家庭は
以前から塾通いをしている
が、模試は小学校受験の時
期と重なり、受けるのはむ
しろ中学受験を見据えた家
庭の子どもたちだ。大学入
試改革をめぐって先行きが
不透明になるなか、中学受
験を検討する保護者が増え
ていることも影響している
とみられる。

中学受験に向けた通塾は一般的に、小3の3学期からスタートするカリキュラムとなっている。しかし、近年は準備の早期化が指摘されている。

中学受験塾大手の「サピックス」では小3生の夏期講習から定員が埋まり、浅谷、白金高輪、茗荷谷校で新たな生徒の募集を停止した。広野雅明教育事業本部長(51)は「思考力や記述力を必要とする新しい入試に対して、特別な対策が必要なのではないかと、保護者が不安を感じているためだろう」と分析する。

同塾では、低学年の通塾は週1回にとどめ、学習の

小3教室すでに満室

■サピックス

すでに満室

は個人差がある。小さい子一て、教室はにぎやかな声に
か」ばかりを考える親が多いが、自分で頑張れる子を育てることが一番大切だ。成長の速度は子どもによって違い、勉強への適切な時期を見分けるのが親の役割だろう。

■花まる学習会

学習塾を展開する「ひうは「花まる学習会」で4歳児から小学生までを対象に、数理的思考力や国語力を身につける授業をしていく。小さいときに手を動かして木のパズルで図形に触れたり、考える力を育てたりすることが、あとで大き

く伸びる力を育てると考
え、授業を楽しむ中で、学
習の土台づくりを目指す。
「小1から小3」のクラ
スでは、なぞなそのような
形で図形の問題を出す。
「家まで一番近い道をさが
しましよう」という迷路の
ような問題を解く。正解す
ると子どもたちは「出来た
！」と大きな声を上げる。
先生は「やったね」と答える。

は、小2で「塾に行くから」とやめてしまう子も出てくるようになった。
こうゆうの高濱正伸代表は「小さじきに五感を使つて没頭した体験こそが、あとで大伸びする力になる。最近の親は不安から焦つてしまふ人が多く、出来たかどうかの数値を欲しがる。幼児期に大切な物を見る誤らないでほしい」と話す。

どもは親と一緒に勉強することの方が大事で、家庭学習が出来ない子はあとで伸びないと広野さんは話す。

土台づくり

く伸びる力を育てると考え、授業を楽しむ中で、学習の土台づくりを目指す。

「小1から小3」のクラスでは、なぞなぞのようない形で図形の問題を出す。「家まで一番近い道をさがしましよう」という迷路のような問題を解く。正解すると子どもたちは「出来た！」と大きな声を上げる。先生は「やったね」と答え

「小4から小6」クラスでは、より高度な思考力を鍛えるため、発展した問題を解いていく。しかし、中学受験の学習塾に行くため、小3の1月でやめる子どももいるという。最近では、小2で「塾に行くから」とやめてしまう子も出てくるようになった。

こうゆうの高濱正伸代表は「小さいときに五感を使つて没頭した体験こそが、あとで大伸びする力になる。最近の親は不安から焦つてしまふ人が多く、出来たかどうかの数値を欲しがる。幼児期に大切な物を見る。あふれている。

4歳から土台づくり

あふれている。
「小4から小6」クラス
では、より高度な思考力を
鍛えるため、発展した問題
を解いていく。しかし、中
学受験の学習塾に行くた
め、小3の1月でやめる子

対策の早期化 不安あおる懸念も

POINT!

につながらないだろうか。
塾は優秀な子どもを早く囲
い込みたいだろう。だが、小
学校低学年で、抽象的な思考
を問う問題を粘り強く解ける
子はごく一部。難しい問題が
解けず、自信や意欲をなくし
いる。

プロ家庭教師集団「名門指導会」の西村則康代表に、中学受験の準備早期化について聞いた。